

## 紫外光照射によるバラうどんこ病の防除

農薬散布だけでは防除が困難なバラうどんこ病に対して、紫外光照射によって防除する技術を確認し、現地実証を行った。2年間の実証試験の結果、複数品種において、特に生育への影響もなく、かつ高い防除効果を示し、実用的に十分使用可能であることが明らかとなった。

### 内容

淡路市の現地ガラス温室10.8m×39m×2連棟において、高さ4.1mに20W形紫外線蛍光灯を4mごとに計5本吊り下げ、毎日23時から午前2時まで3時間、バラに紫外光を照射した。栽培はロックウール耕で、アーチング栽培、夏期は冷房なし、秋期以降はヒートポンプによる暖房で最低15℃設定とした。試験は専技・普及員とともに実施し、期間は2012年6月から2014年2月までとし、うどんこ病が発病しない盛夏期を除き、ほぼ2週間に1回の割合で発病調査を実施した。調査区は、非照射区と照射区のうち、照射強度の強い区(11.8 μW/cm<sup>2</sup>)と弱い区(9.8 μW/cm<sup>2</sup>)に分けた。発病は、程度別に調査して、発病度を求めた。

その結果、写真及び図のとおり、品種「アブラディール」について、紫外光照射区では、いずれ

の照射強度でも試験期間を通じてうどんこ病の発病が強く抑えられたのに対し、非照射区では、頻繁に発病を繰り返し、最盛期(2014年1月30日)には発病度で27.5となった。また、適宜花色や草丈も調査したが、紫外光照射による影響はなかった。また、他の品種も「アブラディール」と同様に防除効果は高く、生育にも影響はなかった。

### 今後の方針

紫外光照射装置の販売は现阶段ではイチゴ専用なので、バラにも適用して販売できるように、メーカーに働きかける。さらに、兵庫県花卉協会などの団体を通じて今回の成果を紹介し、普及を図る。また、バラ農家が導入する際の補助事業のメニュー化を進める。

神戸 武嗣 (病害虫部)

(問い合わせ先 電話：0790-47-2448)



写真 左：紫外光照射区(無発病)、  
右：紫外光非照射区(発病)

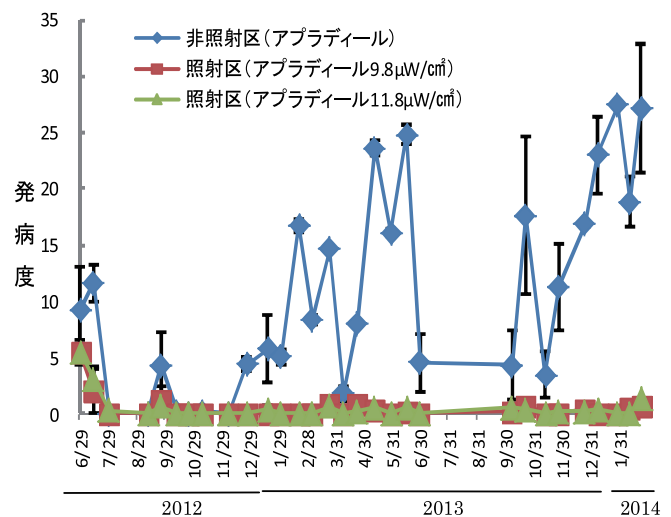


図 紫外光照射によるバラうどんこ病の発病抑制効果 (2年間)